

1 調査名称：平城宮跡周辺地域における街路渋滞対策検討

2 調査主体：奈良県

3 調査圏域：奈良市

4 調査期間：平成20年度～

5 調査概要：

平城宮跡周辺地域の渋滞対策については、従来から様々な検討や対策がなされてきたところである。

さらに、当該地域には国営公園として整備が予定されており、今後大規模な集客施設となる平城宮跡が含まれているにも関わらず、平城宮跡を横断する近鉄線の踏切等により、南北方向をはじめとして、円滑な交通が確保されていない状況である。

また、国営公園の基本計画策定に先立ち、文化庁がとりまとめた「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」において、宮跡内の近鉄線について『宮跡内の移動動線や景観の観点から支障となるため、移設等を含め将来のあるべき姿について関係機関で協議・検討を進めることが求められる。』とされている。

これらのことを受けて、快適で魅力ある都市づくりを進めるため、近鉄線のあり方を含め、平城宮跡周辺地域における抜本的な渋滞対策の検討を行うものである。

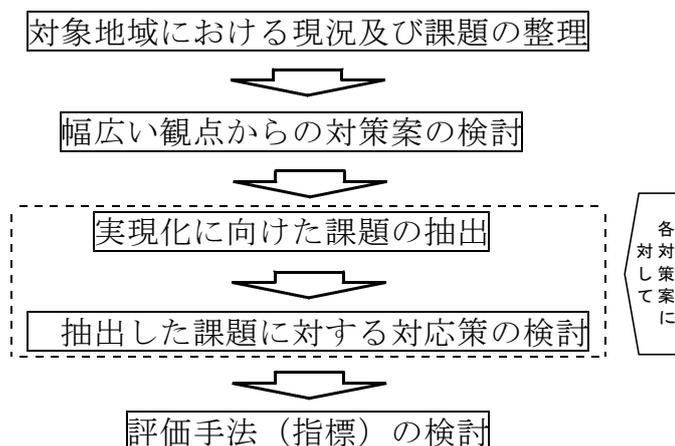
<調査成果>

1 調査目的

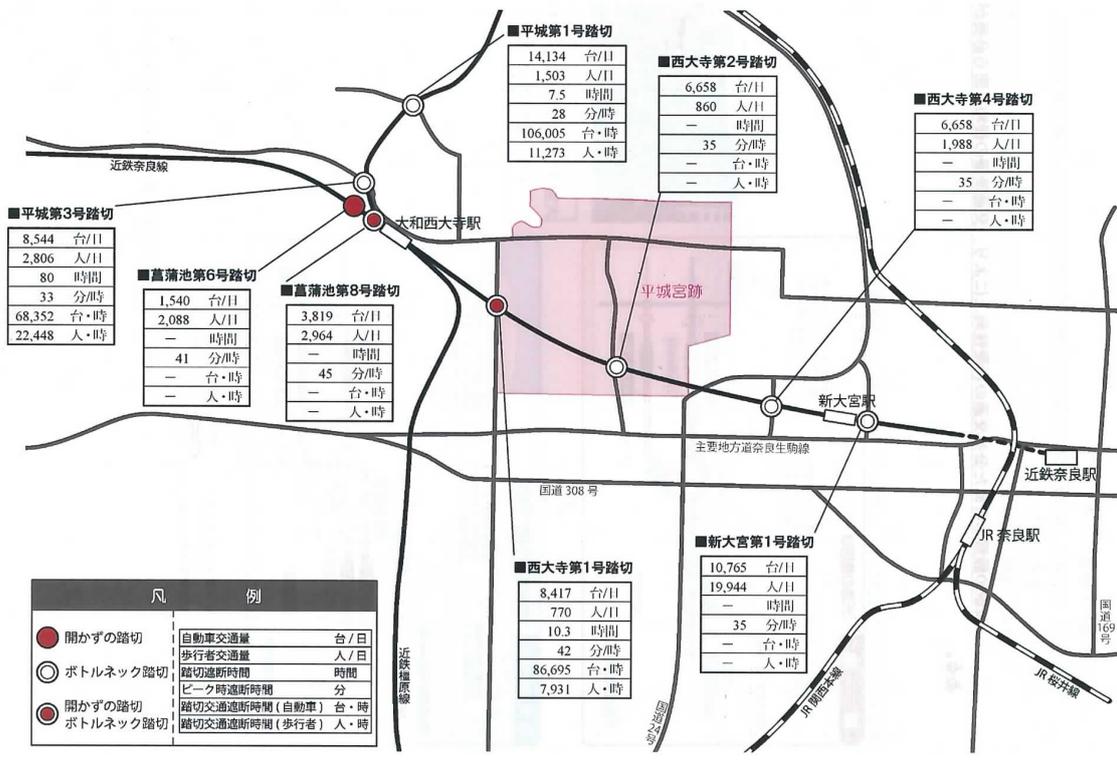
平城宮跡が国営公園として整備されることを受けて、平城宮跡を横断する近鉄線の開かずの踏切等に起因する渋滞の抜本的な対策を行う必要がある。

先の開かずの踏切等による問題の解決にあたり、近鉄線を地下化した場合は、地下水位の変動による平城宮跡の木簡への影響が大きな課題となることから、近鉄線の地下化以外の方法についても、幅広い観点から対策案を検討し、考えられる対策案について、課題とその対応策の整理を行う。

2 調査フロー



3 調査圏域図



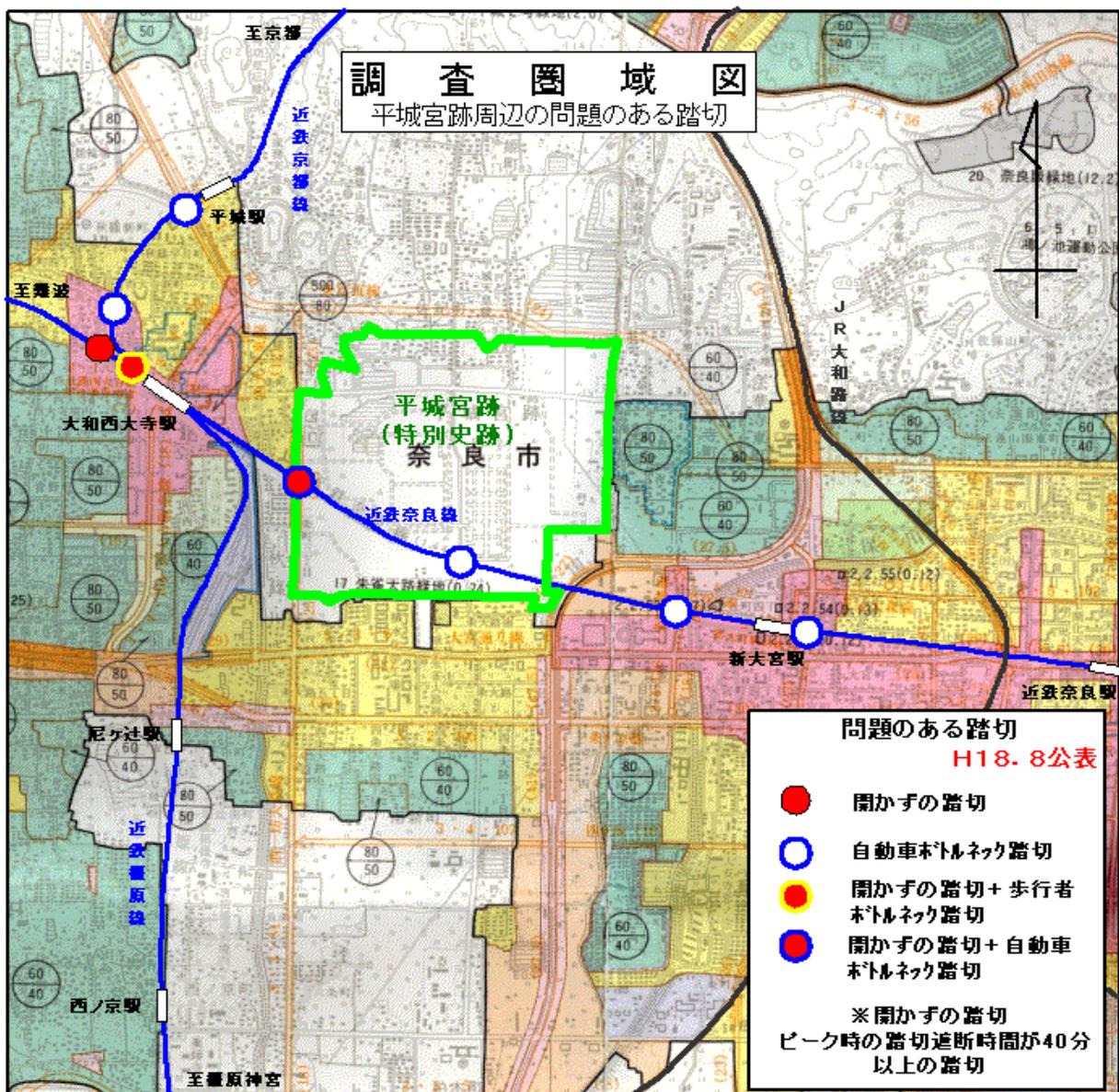
4 調査成果

4-1 調査対象地域の課題の整理

1. 近鉄線の存在による南北の分断状況

近鉄奈良線や京都線の踏切の存在により、南北の地域分断が生じており、長時間の遮断等の影響により交通渋滞が発生している。

平城宮跡周辺の8踏切（下図参照）は、国土交通省が平成18～19年に実施した踏切交通実態総点検の結果より、緊急に対策検討が必要な踏切として抽出されている。

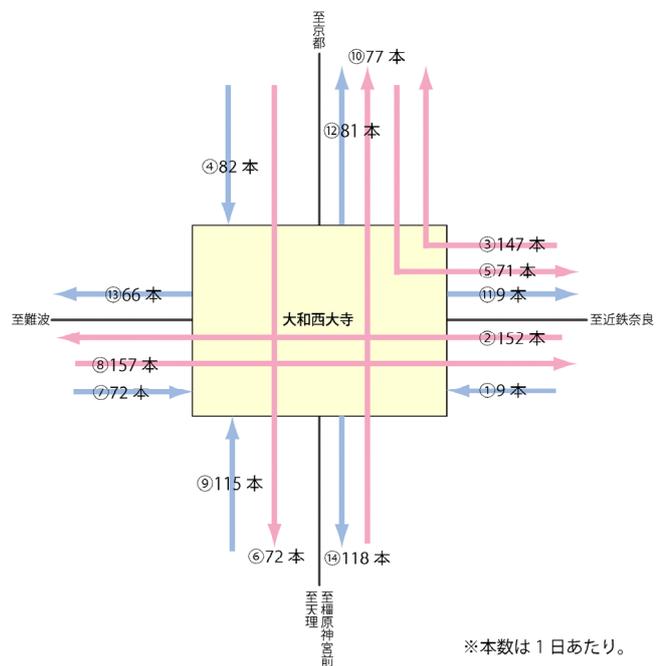


平城宮跡周辺における緊急に対策の必要がある踏切

2. 近鉄大和西大寺駅での過密な列車運用

大和西大寺駅は、奈良線と京都・橿原線の交差点に位置する駅で、これらの路線の平面交差がある中で、ピーク時にはいずれの方面も約4分ピッチで運行されている。

さらに隣接する西大寺検車区や留置線への流出入車両がこれらに加わることで、複雑な配線で過密な運用がされているのが実態である。



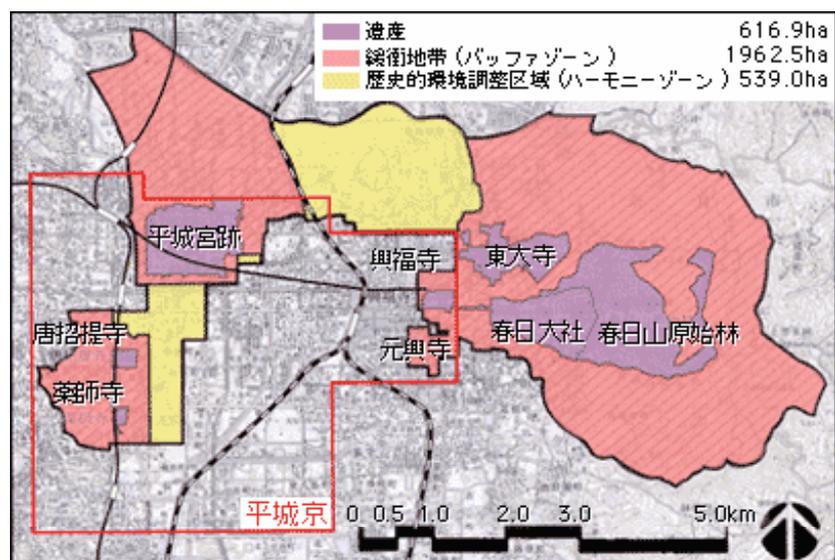
大和西大寺駅の運行本数

3. 周辺の優れた歴史的風土

検討対象地域の平城宮跡は「古都奈良の文化財」として、平成10年に世界遺産に登録されている。平城宮跡では奈良時代の文化を記す貴重な木簡が発掘されている。

また、付近においても長屋王邸が発掘され、多数の木簡も出土している。

さらに平城宮跡を含む一帯は、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法の歴史的風土特別保存地区が都市計画に定められており、わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現し、形成している状況が良好に保存されている。



4-2 検討の基本方針

前述の課題を踏まえた上で、対策案の検討を行うにあたっての基本方針を次のように設定し、対策案の検討を実施した。

■利用者の観点

- ・現在の鉄道利用者の利便性確保
- ・観光客等の利便性の向上

■地域社会の観点

- ・ボトルネック踏切の除却、交通渋滞の解消
- ・大宮通、三条通の渋滞緩和
- ・景観面や遺構への影響を考慮した計画
- ・観光拠点の連携による活性化
- ・上位計画との整合
- ・事業効率・実施環境

■鉄道事業者の観点

- ・現在の輸送力の確保
- ・新駅設置等による利用増進
- ・大和西大寺駅の混雑緩和

検討の基本方針

4-3 実現化に向けた課題と対応策の検討

幅広い観点から対策案を検討する中で抽出された課題の対応策を策定した。

課題抽出の観点	抽出した具体的な課題例
平面、縦断線形成立のための要件	国道24号バイパスの連続高架部のランプ橋橋脚の移設が必要
所要時間の変化による利用者利便性	近鉄線の線形について、現在よりも急曲線を用いるため、所要時間が増加し利用者利便性が低下
平城宮跡歴史公園計画への影響	平城宮跡歴史公園のメインエントランス（大宮通～朱雀門）の動線計画の変更が必要
地下水への影響（平城宮跡の木簡）	平城宮跡付近で鉄道を地下化することによる、周辺地域の地下水位の変動による木簡等への影響検討が必要
平城宮跡等周辺における景観への影響	平城宮跡付近で鉄道を高架化することによる景観への影響検討が必要
地域分断による影響	新たな鉄道（平面区間、堀割区間）ルートによる地域分断の検証
輸送力の確保	ピーク時の利用者数に対応するために必要な措置の検討

4-4 評価手法の検討

今後、各々の対策案を評価比較していくにあたり、「公共事業評価の基本的考え方」（平成14年8月公共事業評価システム研究会）を参考にして、評価項目、指標の検討をおこなった。以下に設定した項目、指標を示す。

6.2 評価項目と評価指標一覧

表 6-1 評価項目と評価指標

大項目	中項目	小項目		評価指標	
事業効率	費用対便益	事業費		・概算事業費の額	
		便益 (効果)	渋滞対策効果	・除却される踏切の数 ・バス交通の増加による道路混雑の悪化 (バス交通の増加本数)	
			鉄道 移設 効果	移動時間短縮効果	・所要時間の増加分×時間価値原単位× 利用者数(マイナス効果)
				乗換利便性向上効果	・乗換回数の変化(マイナス効果)
				車内混雑緩和効果	・混雑率の変化(マイナス効果)
波及的影響	住民生活	公共交通充実		・ネットワークから見た公共交通の利便性	
	地域経済	—			
	安全	—			
	環境	景観への影響		・平城宮跡エリアの景観への影響 ・都市景観への影響	
	地域社会	観光の活性化		・奈良都心エリアの駅数の変化	
		文化財の保護		・木簡等文化財への影響（地下水位、基礎）	
事業の 実施環境	事業の実行性	鉄道事業者との合意形成		・サービスの低下（移動時間短縮便益、 乗換利便性向上便益、車内混雑緩和便 益のマイナス便益） ・大和西大寺駅の混雑緩和	
		地域の同意		・用地買収面積	
	事業の成立性	上位計画との関連		・「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮 跡区域 基本計画」との整合	
	技術的難易度	—			